

大阪湾漁場環境速報

平成29年2月4日発行
兵庫のり研究所

大阪湾東寄りの海域ではスケルトネマが優占種として大量発生しています。また大阪湾西寄りの海域ではユーカンピアが主体として多く見られます。これらの珪藻が全域で確認されるため、河川水等の影響を受けていた湾奥部を除いて、栄養塩（窒素・リン）は低い値となっており前回（2/16）調査より減少しています。

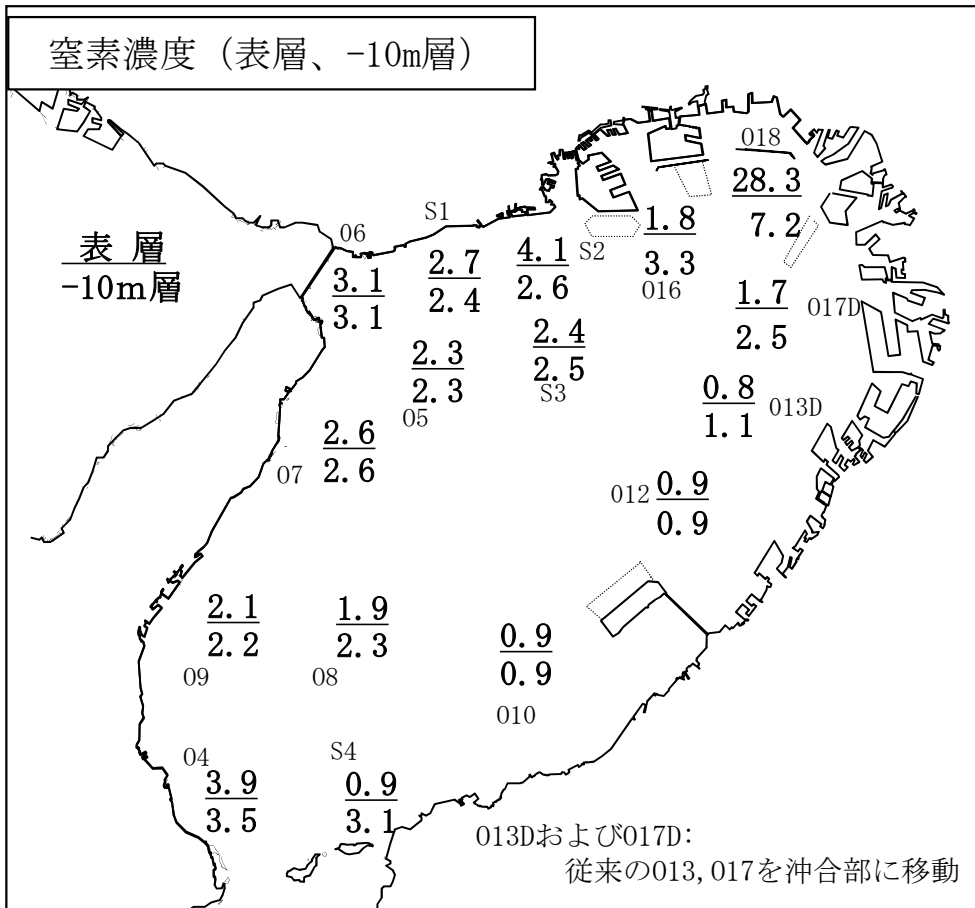
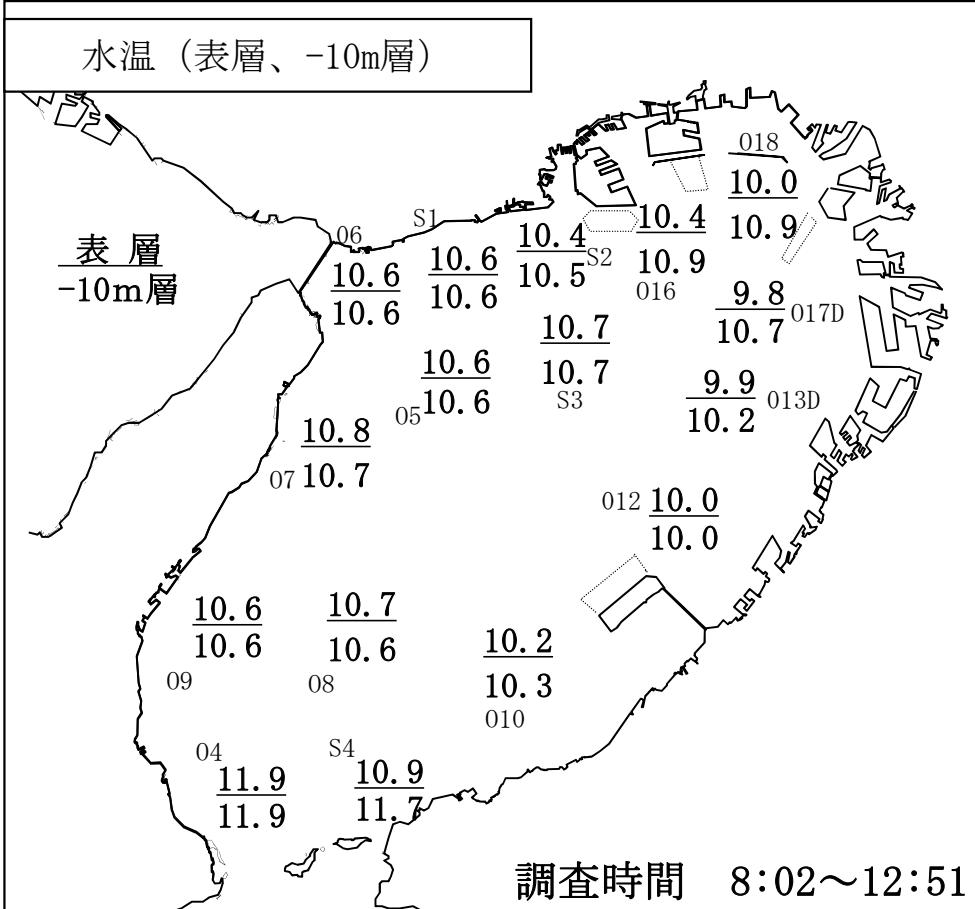
（水温）表層は湾内9～11℃台で、平均10.6℃（平年比+1.0℃）。-10m層は平均10.7℃（平年比+0.8℃）。

（塩分）表層平均31.77psu（平年 31.43）。-10m層平均31.87psu（平年 32.18）。

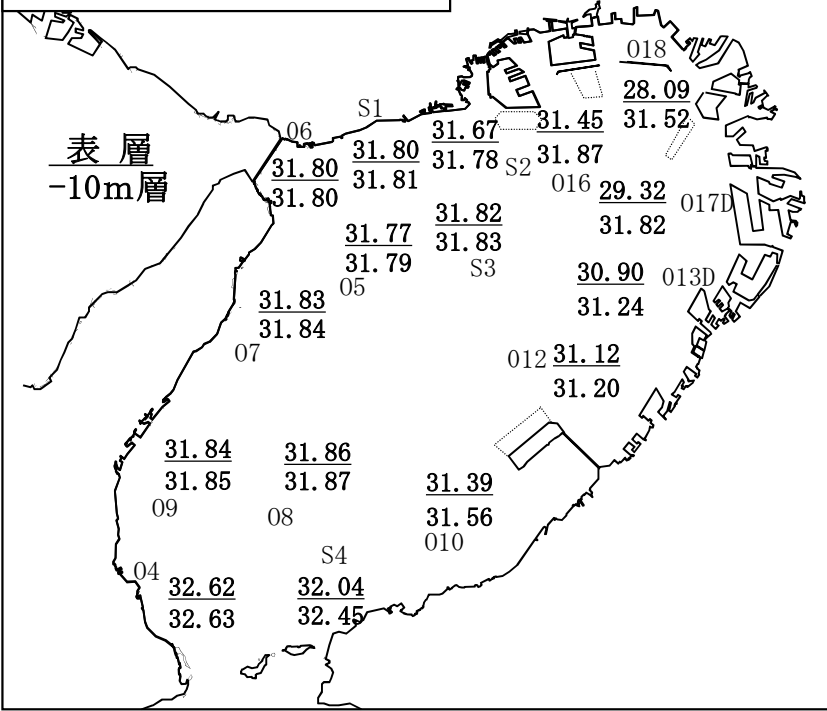
（栄養塩、他）表層の窒素は平均2.3 μg-at/L、リンは平均0.25 μg-at/L。窒素・リンとも平年より低い。-10m層（平均）は、窒素2.4 μg-at/L、リン0.29 μg-at/L。神戸空港東から湾奥、関西空港周辺にかけてスケルトネマの大量発生による赤潮が見られ、特に湾奥で強い着色域が確認された。これら海域では栄養塩が大きく減少している。また神戸地先や神戸沖、淡路東浦ではユーカンピアが主体として多く、スケルトネマやリゾソレニア等の小型珪藻も見られており、窒素は概ね2～3 μg-at/Lに減少している。2/16の調査と比較し全般にユーカンピアの発生量増加ならびに発生域の広がりが認めらる。珪藻（ユーカンピア及び小型珪藻）の早期沈静が望まれる。

上段（今回値）	平成29年2月3日調査
中段（昨年値）	平成28年2月3日調査
下段（平年値）	2月上旬

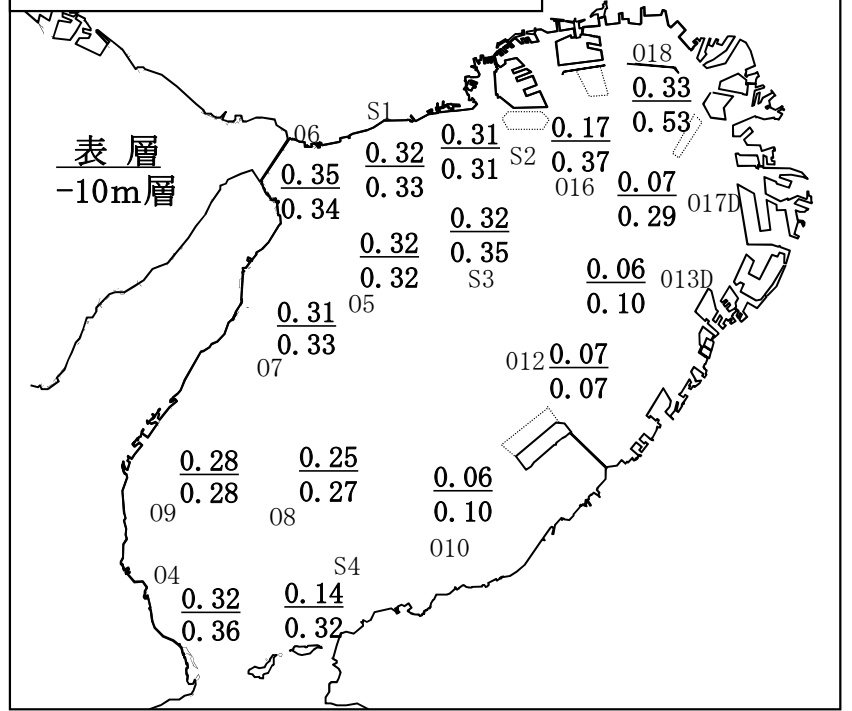
調査地点	水温 (°C)	塩分 (psu)	三態窒素 (μg-at/L)	燐酸 (μg-at/L)
04	11.9	32.62	3.9	0.32
	12.1	32.65	3.6	0.33
	10.8	32.60	4.4	0.40
05	10.6	31.77	2.3	0.32
	11.1	31.78	2.8	0.24
	9.6	31.92	3.9	0.34
06	10.6	31.80	3.1	0.35
	9.6	29.22	4.2	0.08
	9.4	31.49	5.2	0.32
07	10.8	31.83	2.6	0.31
	10.8	31.63	1.4	0.11
	9.7	32.00	3.4	0.34
08	10.7	31.86	1.9	0.25
	11.0	31.61	0.6	0.07
	10.1	32.11	2.9	0.29
09	10.6	31.84	2.1	0.28
	10.7	31.73	0.6	0.07
	10.1	32.17	3.4	0.33
010	10.2	31.39	0.9	0.06
	10.5	31.36	1.5	0.07
	9.3	31.51	3.9	0.21
012	10.0	31.12	0.9	0.07
	10.3	31.07	1.5	0.08
	9.0	30.79	7.6	0.26
013D	9.9	30.90	0.8	0.06
	10.3	30.77	1.7	0.07
	8.7	29.60	13.5	0.33
016	10.4	31.45	1.8	0.17
	9.8	28.45	10.4	0.08
	8.8	29.20	15.7	0.28
017D	9.8	29.32	1.7	0.07
	10.5	29.96	9.0	0.12
	9.0	29.06	20.6	0.42
018	10.0	28.09	28.3	0.33
	9.2	23.71	27.8	0.38
	9.0	27.67	30.8	0.61
S1	10.6	31.80	2.7	0.32
	10.2	31.12	2.7	0.12
	8.9	30.88	8.9	0.26
S2	10.4	31.67	4.1	0.31
	9.9	29.23	5.8	0.08
	8.9	30.14	11.0	0.24
S3	10.7	31.82	2.4	0.32
	10.1	31.07	1.3	0.05
	9.4	31.39	5.3	0.26
S4	10.9	32.04	0.9	0.14
	11.9	32.44	1.6	0.14
	10.5	32.41	3.7	0.34



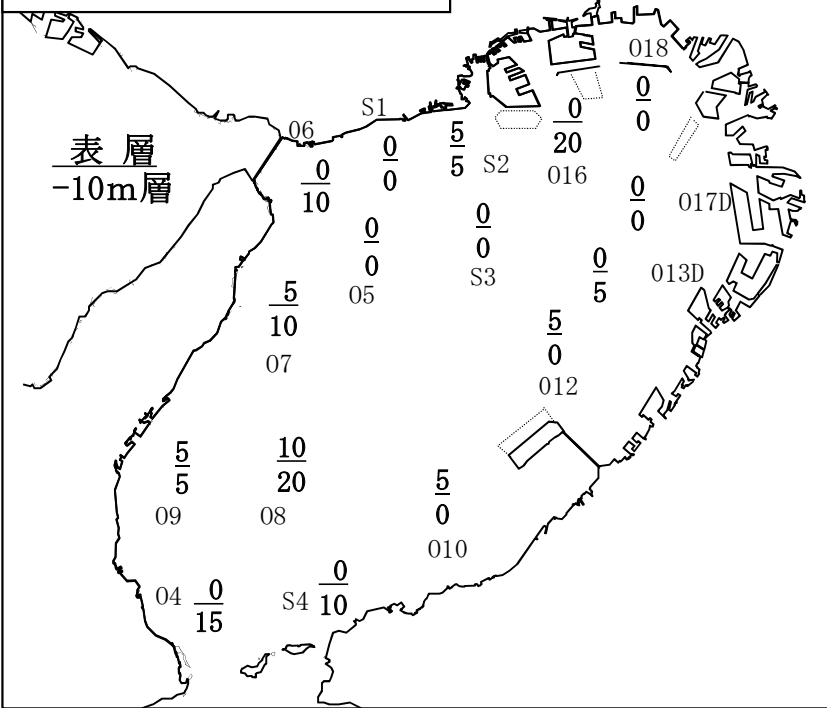
塩分 (表層、-10m層)



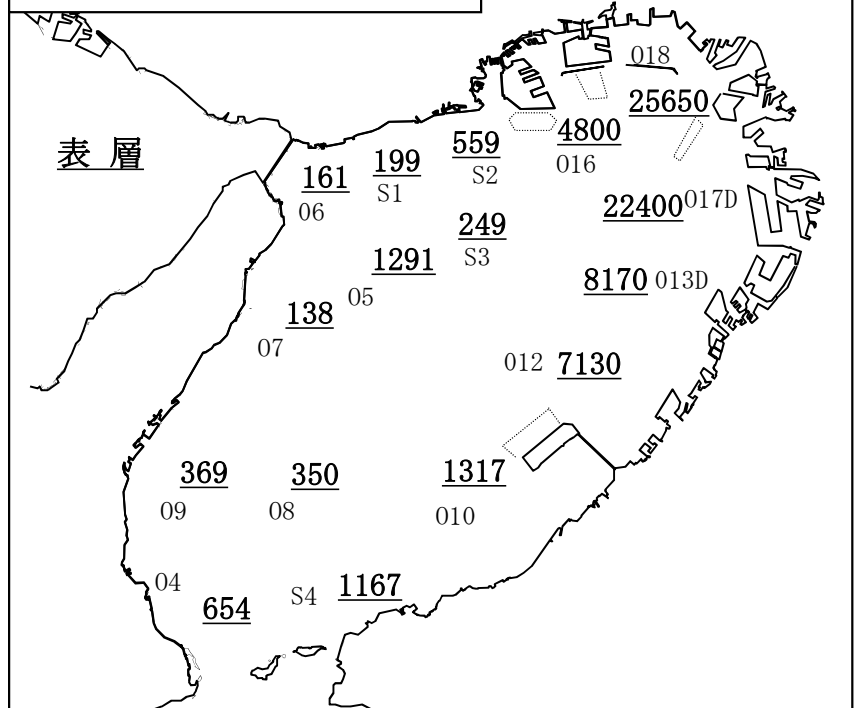
リン濃度 (表層、-10m層)



コシノディスクス (細胞/L)



スケルトネマ (細胞/ml)



ユーカンピア (細胞/mL)

